

ステキな酔っ払いの周りに人は集う 酒がもたらす縁の妙

新しい出会いを取り持ち、友との仲を深める一方で心弱き者を暴君に変貌させることもあるお酒。あなたはどっちの飲み方を選びますか？
答えは一つ。まずは酒場へ。そしてお隣と「乾杯！」と、いきましよう。

酒場詩人

吉田 類

●よしだ・るい 高知県生まれ。俳句会「舟」主宰。シュールアートの画家からイラストレーターに転身し、1990年代からは酒場や旅をテーマに執筆を始める。2003年から出演しているBS-TBS「吉田類の酒場放浪記」は好評を博し、現在も放映中。

効用は飲む人次第

——吉田さんにとってお酒は毒ですか？ それともクスリですか？
それは間違いなくクスリです。お酒を飲むと、とにかく楽しくなるんです。すると周りの人がどんどんいい人に思えてきて、さらに楽しくなってくる。それが相手にも伝わ

るから、お互いがうれしくなっていて、結果的に仲良くなっちゃう(笑)。それが僕の酒の飲み方ですから、毒であるわけがないし、豊かな出会いをもたらしてくれる「クスリ」としてのお酒なくして、人生はありえません。でも、お酒が毒になってしまいう人も、中にはいるでしょうね。普段は小心者だけれど、お酒を飲

むことで気が大きくなる人がいますよね。こういう場合はだいたい、自分より弱い者に対して気が大きくなることが多い。それで家族や恋人に暴力をふるうなんて事件が起きたりする。こうなると酒はもう、毒というしかありません。酒が気の弱い人を暴君にしてしまうのは、酒を飲む人間の精神の問題です。心が病んでいけば、酒に限ら

ず、たとえば買い物というありふれた行為だって、その人にとっては依存的な毒になりえる。

要するに、お酒自体は毒でも何でもないんだけど、人によっては毒になるし、僕みたいにクスリにもなる。結局、飲む人次第ということなんでしょう。

酒は神代の昔から作られていて、それこそスサノオノミコトも飲んでいました。彼も自らの悩みをお酒に託し、

とんでもなく暴れたりしましたが(笑)、これだってお酒が悪いわけじゃない。スサノオ自身が抱えていた悩みのほうが問題だったんです。こうした神話のエピソードは、日本人がまだ文字を持たなかった時代に起源を持ちます。そのころの歴史はすべて口伝で、語り継ぐうちに一つの物語となり、やがて神話化していきます。

日本各地に残る天岩戸伝説は、その典型でしょう。

天岩戸伝説が残る場所には、スサノオの暴挙に激怒したアマテラスオオミカミが引き籠ったと伝えられる岩屋や、アマテラスを岩戸から出

一杯いきましよう！

僕は酒好きが多い県として名高い高知の山奥で生まれ(笑)、幼いころからお酒に囲まれて育ちました。高知はもともと、酒との関わりが深い土地です。平安時代、土佐に左



全国各地のカルチャーセンター等での講演を多数予定している吉田さん。最新刊『吉田類の旅と酒場俳句』(KADOKAWA)も好評発売中。

スを岩戸から出